

ペーパーピペット 20 μ L用 取扱説明書

この説明書をよく読んでからお使いください。必要なときに読めるよう大切に保管してください。

●製品の特徴

ペーパーピペット 20 μ L用は、液体サンプルをおおよそ 20 μ L 採取することができます。さらに、溶液中で振り混ぜることで、採取した液体を希釈し簡単に均一化することができます。

●使用目的

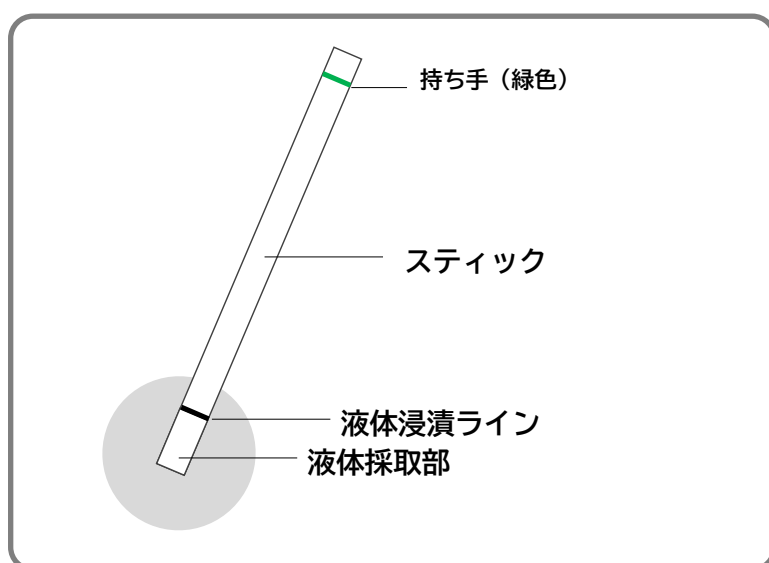
希釈が必要な液体サンプルの採取ならびに希釈操作

●採取性能

20 μ L \pm 10%（純水を採取したときの10本分の平均値より算出）

性能確認試験の結果は P3 をご覧ください。純水ではない液体の場合は、採取性能が異なる場合があります。

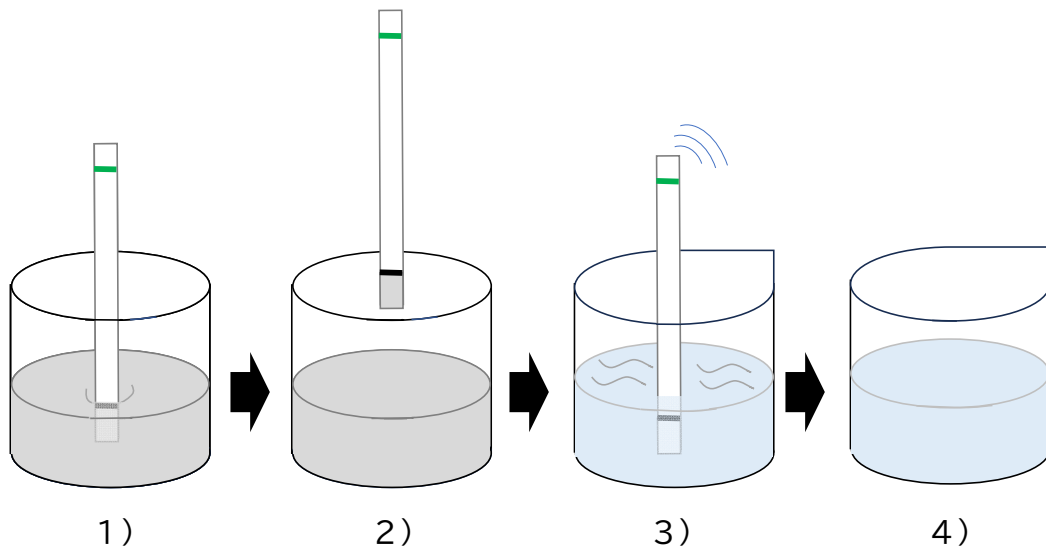
●ペーパーピペットの構成



●使用方法

例：めんつゆを 1,000 倍希釈する場合

- 1) めんつゆにペーパーピペットを液体浸漬ラインまで浸け 5 秒間保持します ($20\mu\text{L}$ 採取)。
- 2) 取り出したらスティックの裏面についた余分な液体サンプルをティッシュ等でふき取り、除いてください。
- 3) ビーカーに入れた 20mL の純水中に液体採取部を浸けて 10 秒間振り混ぜます。
※液体採取部に液体サンプルが残っている場合は、完全になくなるまでさらに振り混ぜます。
- 4) 1,000 倍希釈した溶液が完成します。
※正確な希釈が必要な場合は、マイクロピペット等を利用してください。



●ペーパーピペットの性能確認試験

1. 純水を用いた採取試験

ペーパーピペット $20\mu\text{L}$ 用を無作為に 20 本抜き取り、純水を採取して重量を測定し $20\mu\text{g}$ ($=20\mu\text{L}$) を採取できるか試験をしました。20 本の平均値は $20.18\mu\text{g}$ でした。簡易でありながら $20\mu\text{L}$ を定量採取できました。

●希釈溶液の作製表

下記の表を参考に希釈してください。

希釈倍率	ペーパーピペットでの採取量 (μL)	希釈に使用する水の量 (mL)
50倍	20	1
100倍	20	2
200倍	20	4
500倍	20	10
1,000倍	20	20

※希釈倍率はおおよその値を記載しております。

※希釈に使用する水の量が少ない場合、容器によってはうまく混ざらないことがあります。その場合は容器を変更したり、水の量を増やすなどしてください。

●ご使用に際して次のことに注意してください。

ペーパーピペットはあくまでおおよそ $20\mu\text{L}$ ($20\mu\text{g}$) を量り取るための器具です。正確な希釈が必要な場合はマイクロピペット等をご利用ください。

〈採取する液体に関する注意〉

- ・粘性の高い液体は正確に採取することができません。
- ・有機溶媒は採取することができません。
- ・着色が濃い液体（コーヒーやお茶）の場合、水に希釈した際、液体採取部から全ての色素が溶出しない場合があります。その場合は水中で振り混ぜる時間を長くして、色素が完全になくなるまで振り混ぜてください。
- ・つゆ、タレ、液体調味料など食品成分が多量に溶けている溶液を採取した場合、 $20\mu\text{L}$ ($20\mu\text{g}$) 以上採取されることがあります。

〈ペーパーピペットの保管に関する注意〉

- ・ ペーパーピペットを高温多湿のところに置かないでください。液体採取部が過剰に吸湿した場合、定量採取性能が低下する場合があります。

〈ペーパーピペットの仕様に関する注意〉

- ・ ペーパーピペットは滅菌処理をしておりません。
 - ・ ペーパーピペットを長時間液体サンプルに浸けたままにすると液体採取部がはがれるなど、正しく使用することができなくなります。ペーパーピペットを浸す時間や液体中での振り混ぜる時間を守ってください。希釈操作の液体中で振り混ぜる時間は、最大で 30 秒程度を目安にしてください。
 - ・ 液体採取部に直接手を触れないでください。
 - ・ ペーパーピペットの再利用はできません。一度採取した液体採取部の吸水性能は劣化します。
- ・ 初めて使用する方にはサンプルキットを用意しております。使用する液体の採取に利用できるかを検証してからご使用ください。

●お問い合わせ先

プリマハムグループ

株式会社つくば食品評価センター 検査試薬事業部

Email: Allergeneye@primaham.co.jp

Tel : 029-841-8950

Post : 300-0841 茨城県土浦市中向原 635